

「占い」から「インテリジェンス」へ：実効的なIPランドスケープの再構築



「占い」へと縮退する
3つの構造的病理



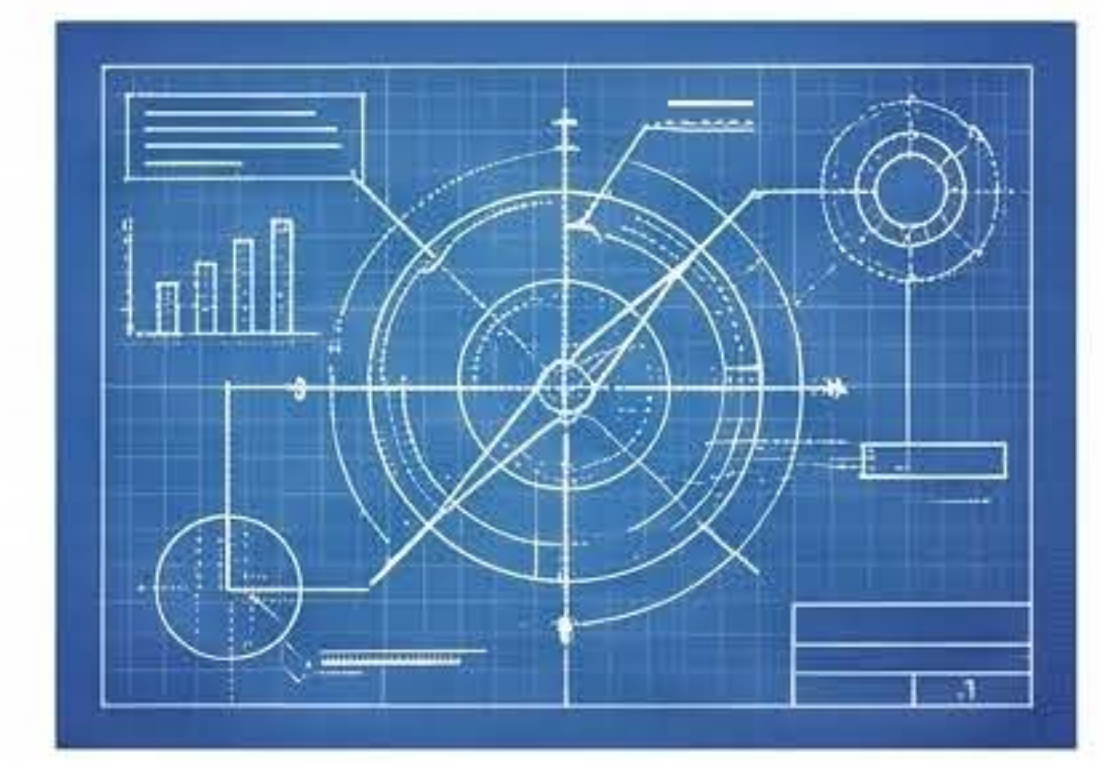
データ境界の忘却と
論理の飛躍

分析対象団の限定性を無視し、飛躍した
推論で技術の未来を断定すること。



確証バイアスによる
「キメウチ」の正当化

導きたい結論に都合の良い情報だけを集
め、反証を無視する「証拠の遡り固め」。



戦略コンサルの
「劣化コピー」化

体論を提議するあまり、特許情報団布の
価値や技術的リアリティが消失すること。

「占い」と「正統」な分析の決定的な違い

占いIPランドスケープ

正統なIPランドスケープ

占いIPランドスケープ

論拠の性質：断片 仮説検証：結 提供範囲：一時
情報の決量的結合 論の決め打ち 的な知好奇心



正統なIPランドスケープ

論拠の性質：特許(物的証
拠)を軸とした情報突合



仮説検証：反証可能性
を確保した仮説の更新



提供範囲：結実判断の確度
向上・未知の脅威発見



「真のインテリジェンス」
への脱却処方箋



特許の「物的証拠性」を
分析の重心に据える

偽造が困難な特許情報を
「座標軸」とし、他情報と
非対称に突合する。



「提言」ではなく
「精度の高い問い」を提示
出願動内の異常値から、経営潜
が気づいていない「問い」を特定し
提示する。



反証を起点とした
アジャイルな検証

自説を否定する情報を優先的に
探索し、対論を通じて仮説を
進化させる。